漁師になった経緯と今後の目標

森 優貴

皆様、こんにちは。
上越漁業協同組合 筒石支所所属の森優貴と申します。
私は福島県会津若松市から高校を卒業後に 18 歳のときに新潟県に来て、漁師を始めました。
私が漁師になったのは、小さい頃から魚や海が好きで、漁師という仕事に憧れていたというのがきっかけでした。会津若松は海のない地域ですが、魚を見ることや食べることが好きで、将来は魚に深く関わる仕事がしたいと考えていました。その中で、魚を獲るところから市場に出るまでを担う漁師に魅力を感じ、この仕事を選びました。
漁師の仕事は、実際の経験を積まなければ身につかないことが多く、まだまだ親方に迷惑をかけることがあります。それでも、教えていただきながら少しずつできることが増えていくことに、楽しさとやりがいを感じています。特に大漁だった時には、大きな達成感があります。
仕事で大事にしていることは怪我をしないことです。そのうえ、先輩方からよく言われた「どうしたら楽に、早く、丁寧に仕事ができるか」ということを考えながら仕事をしています。
これからの目標としては、まずは一人前の漁師になることです。親方から教えていただいたことや、先輩方から指導いただいたことをしっかり身につけ、技術を向上させていきたいと思っています。そして筒石や、新潟の漁業を支える一員になって、これまでにお世話になった方々に恩返ししていきたいと思います。
最後に、これからも、初心を忘れることなく、安全第一で怪我をすることなく仕事に励んでいきたいと思います。
そして、今まで、漁師を続けてこられたのは筒石の皆さんが温かく迎え入れてくれて、支えてくれたおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。
本日はご清聴ありがとうございました。